

22 年度は、夏と冬に各 5 週間ずつフランス原子力庁 CEA(Commissariat à l'énergie atomique) の基礎研究部門の研究所に滞在し、研究を行ってきました。CEA の研究拠点はフランス各地に 10 箇所ほどありますが、私が滞在したのは、南フランスのブーシュ＝デュ＝ローヌ県カダラッシュという町にあるものです。世界的には「IETA の拠点がある研究施設」と言った方が分かりやすいかもしれません。IETA 核融合実験炉のあるカダラッシュには世界中から研究者が集まっています。

私の滞在先は、ライフサイエンス基礎研究部門の Laboratory of Plant Development Biology、Laurent NUSSAUME 博士の研究室です。研究室のメンバーは、CEA 研究員が 5 名、ポスドク 2 名、技術員 5 名、そして日本でいうところの連携大学院制度のような形で 3 名の博士課程学生の総勢 15 名です。

< 研究環境について >

研究所ということもあり、研究環境は大学に比べると大きく異なっていると思います。こちらの研究室では、研究員 5 名が実験を立案、ポスドクは研究員につきながら勉強し、実験のうちの特に新しい技術の立ち上げなどの試行錯誤するような場面を担当しています。そして、技術員の方々は研究室備品の管理から実際の実験までをてきぱきとこなされていました。彼らは 10 年来のベテランさんばかりで、研究室の実験プロトコルを熟知しており、学生やポスドクの入替わりでメンバー構成が変化しがちな研究室においても実験技術が安定して伝えられていました。このようにシステム化しているためか、とにかく実験が進むのが速いのに驚きました。たくさんの先生のいる環境で勉強している博士課程の学生さんが、少し羨ましくも感じましたが、一方、自分で実験を立案したり新しい実験方法を試したりすることをもっとしてもよいのではないかという印象も受けました。

短期間の滞在にも関わらず、普段の 3 倍量ぐらいの実験をこなせたように感じます（笑）。データを出した後の丁寧なディスカッション、そして実験の軌道修正をしながら再実験というふうに充実した時間を過ごすことができ、自分の実験の進め方を見直すよい機会にもなりました。



写真上、研究室の様子
写真左、研究室昼食会の様子
時々こんなふうにゼミスペースで一緒に食事をしました。それぞれ手作りのものを持ち寄りです。

<生活環境について>

研究所は、郊外の広大な敷地にあるため、多くの人が車かバスで通勤しています。バスは、研究所から 28 もの地方への朝晩の送迎をおこなっており、ほとんどの人がバスを利用しています。研究所のバスですのでもちろん料金はまったくかかりません。基本的にこのバスに合わせてみなさん生活されているため、仕事は 8 時半ぐらいから始まり、帰りのバスが出る 4 時半には仕事を終えて帰る人がほとんどです。みなさん帰宅後の家族との時間を大切にしているとのことでした。

今回の滞在では、研究所から 40 分ほどのところにあるエクス市内にウィークリーマンションを借りていました(ワンルームにミニキッチンとシャワー・トイレ)。エクス市は、いわゆるプロバンス地区の代表的な街で夏期のバカンスシーズンには、国内外から多くの観光客が訪れる美しい街です。セザンヌの生誕の街としても有名です。

エクス市内で毎週末に開かれる市場が充実しているため、日常生活では、憶えたてのつたないフランス語の実践をかねて市場での食材の買い出しを中心にし、不足したものをスーパーマーケットで購入するというような感じでした。主食のバゲットは、お店の個性が出ているため、友人によってお気に入りのパン屋さんが異なり、それぞれの話を聞きながら食べ比べを楽しんだりしました。研究室メンバーが言うことには、「フランス人は食べるのが大好きでいつも料理の話ばかりする」ということで、研究テーマ上での出会いとはいえ、偶然にも食べることと料理好きの私にとっては、研究以外の面でも最適な滞在でした。最後の日には、研究室みんなのコメント入りのフランス家庭料理のレシピ本をプレゼントしていただくなど、研究でも生活面でも実りの多い滞在でした。

GoNERI 海外武者修行プログラムがきっかけとなり、このような研究交流を続けさせていただいております。関係者のみなさま、どうもありがとうございました。



写真は左から、セザンヌがよく描いたサントピクトワール山、エクス市内の街並み、週末の市場の様子